

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
中区豊かなこころづくり応援事業		中区役所 自治推進課			
事業目的	事業内容	活動指標	R4	R5	R6
乳児と保護者に絵本を配付した上で、絵本の読み聞かせを体験してもらい、その重要性を認識してもらう。また、親と子の心のふれあいの契機とすることで、今後も絵本に興味・関心をもってもらうことを目的とする。	4カ月児健診時に、絵本1冊と子育ての参考となる資料をセットにしたブックスタートパックを配付する。ボランティアによる読み聞かせ体験に対する乳児の反応から、保護者に「読み聞かせ方法」を学んでもらう。また、保護者が乳児のために絵本を選ぶ参考となるよう、図書館員が推薦する絵本の展示コーナーを設ける。	絵本配付率 (配付数/健診者数) 絵本の読み聞かせの参加人数	100% (889/889)	100% (762/762)	92.7% (646/697)
			0人 <small>(新型コロナウイルスの影響により読み聞かせ27回分中止)</small>	51人 <small>(10月より再開、10回分実施)</small>	359人
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
◎ 行政が主体となることで、全ての乳幼児とその保護者に公平なサービス提供が可能となり、「こどもの成長を社会全体で支える」という公共的な役割に合致している。また、絵本を通じた言語・情緒の発達支援という教育的意義も高く、行政による実施の妥当性は非常に高い。	○ 本事業では、絵本の配付を区役所、図書館員が図書館でのイベント紹介、市民ボランティアが読み聞かせを行うことで、それぞれの強みを活かした協働体制を構築できている。	○ 本事業は、絵本配付を通じて子育て家庭への支援を身近に届ける取組であり、子育て支援の重要性を住民に伝える機会となっている。読み聞かせボランティアや図書館との連携により、地域で支える環境を示し、子育てにやさしい都市としてのPR効果も期待できる。	◎ 乳幼児健診という既存の行政サービスの機会を活用することで、限られた行政資源を有効に使いながら事業を展開しており、費用対効果の面でも効率的に運営できている。保護者が自然に来所する機会を活かすことで、対象者の負担も少なく、支援が届きやすい点でも効率的な手法といえる。		
⑤自立発展性	総合評価				
○ 行政の支援を基盤としつつ、市民ボランティア等の地域住民による関与が広がることで、完全な自立には限界があるものの、行政との協働による安定的かつ持続可能な実施が期待される。	◎ 中区豊かなこころづくり応援事業は、行政と市民ボランティアが連携し、乳幼児健診の機会を活用して効率的に展開されている。すべての家庭に寄り添った子育て支援として地域に根ざしており、市民との協働により、地域による支援の広がりが感じられる取組となっている。子育てがしやすい中区としてのPR効果も期待できることから、総合的に意義のある事業であるといえる。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	これまで絵本の配付は乳幼児健診の会場で行っており、配付率は高い水準を維持していたが、読み聞かせ体験への参加率は低い状況が続いていた。令和6年度からは、読み聞かせ体験の重要性を踏まえ、絵本の配付場所を体験会場に変更した結果、配付率はやや低下したものの、参加者数は大幅に増加した。今後も、こどもの健やかな成長と家庭内での豊かなコミュニケーションの促進を図るため、ボランティアや図書館と連携して継続的に事業を実施する。				